

令和6年度 第1回 湯沢市地方創生推進会議 議事録

- 1 日 時 令和6年8月1日(木) 14:00~16:00
- 2 会 場 湯沢市役所本庁舎4階 会議室41
- 3 出席委員 【出席者】
・ 石沢真貴(秋田大学)、若狭誠一郎(湯沢商工会議所青年部)、
関係者 阿部俊介(ゆざわ小町商工会青年部)、佐藤敏洋(湯沢市観光物産協会)、
(敬称略) 斉藤貢悦(湯沢公共職業安定所)、吉田美央(秋田県雄勝地域振興局)、
小西暁(北都銀行湯沢支店)、山下知之(秋田銀行湯沢支店)、
岩佐真(連合秋田横手湯沢地域協議会)、
久間田稔(湯沢青年会議所)、高橋玲子(合同会社 Linpeace)、
飯田眞悟(湯沢市総合戦略アドバイザー／NECソリューションパートナー株式会社)
- 【欠席者】
坂本伸(こまち農業協同組合)、
松原寛(国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所)
- 4 案 件 (1) 第2期湯沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について
(2) 次期湯沢市総合戦略の策定方針(案)等について
(3) その他



案件での発言要旨

案件（１）第２期湯沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について （ 事務局から資料について説明 ）

◆アドバイザー	戦略１の事業概要１について、少子高齢化が避けられない中で、関係人口の拡大は非常に重要であると考えています。湯沢市では、例えばリビングラボなど素晴らしい活動をしています。残念ながら市外、県外になかなか活動が伝わっていないように感じます。周知をどのように行っているかについて確認させてください。
●市	SNS や LINE のオープンチャット等を活用しており、一般的な方法を用いて周知をしています。
◆アドバイザー	あまりリーチができていないといいますか、SNS の閲覧数もおそらく少ないと思いますので、そのあたりを今一度チェックしてアクションを考えた方がよいと思います。 次に戦略１の事業概要３について、全国で使われている「地方創生SDGs 官民連携プラットフォーム」を利用していますが、このプラットフォームの大きな目的はマッチングにあると思っています。湯沢市の課題についての民間企業とのマッチングの感触や、まだやられていないのであればマッチングにトライする予定はあるのかという点についてお聞かせください。
●市	プラットフォームを通して課題解決の提案をいくつか頂いていますが、市と提案先との考え方にミスマッチがあり、マッチングの実現には至っていない状況です。
○委員	結婚支援について、スキルアップセミナーとは具体的に何のスキルをアップさせようとしているのでしょうか。
●市	女性についてはメイク、男性についてはコミュニケーションの取り方についてのスキルアップになります。
○委員	そのスキルアップの効果が顕著に現れたとか、カップルが成立したといったようなことはありましたか。

●市

セミナーを受講された方々がその後どうなったかという結果までは追跡調査をしておらず、把握できておりません。

○委員

金融機関でもカップル成立から結婚するまでの伴走支援の取組を行っています。4年ほど前には、にかほ市さんに提案のうえ支援を行わせていただきました。結婚支援を行う用意はありますので、御相談いただければと思います。

○委員

資料1の戦略2について、市の重要課題として地元を離れる若者が増加しているという部分で、若者が地元を離れる理由についてのアンケート調査であったり、明確にわかっているものがあるのかについて教えてください。

●市

平成27年に第1期総合戦略を策定した際の高校生アンケート調査では、約70%の子どもたちが進学したいと考えているという結果になりました。やはり進学によって地元を離れる方が多いと考えています。

○委員

子どもたちの地域社会との関わりや体験についての取組として、どういったことを行っていくのが望ましいのかというイメージがあれば教えてください。

●市

次期総合戦略の策定に向けて、高校生を対象としたアンケート調査を行いました。その中で、やはり地元で愛着がある方は地元に残りたいと考えているという結果になりました。従いまして、子どもたちの郷土愛をどのように醸成していくのか、という点が重要であると考えています。

○委員

移住定住施策に関して、ゆざわローカルアカデミーの参加者の出身地や年齢構成等について教えてください。また、参加者が湯沢市のどういった部分に魅力を感じるかという点についても教えてください。

●市

年齢構成については把握しておりませんが、出身地については県内出身の方もいますが、首都圏や宮城県の方に多く参加いただいています。参加理由については、自然と触れることができるというところに魅力を感じたと聞いておりますし、参加してよかったという御意見も頂いています。

- 委員 奨学金返還助成について、これは奨学金を借りていた人が湯沢市の会社に勤めて、その方に対する支援が 69 人で金額が約 340 万円という理解でよろしいでしょうか。
- 市 大学卒業後に湯沢市に住所を移していただいて、主に県内の事業所にお勤めの方に対して返還を助成するものでありまして、昨年度は 69 人の方に助成をしたということです。
- 委員 湯沢市奨学金による就学支援について、これは湯沢市から県外に出る方が支援の対象となるという理解でよろしいでしょうか。
- 市 こちらは御自身または親御さんが湯沢市に住民登録のある方に対して、奨学金を貸与するというものになります。
- 委員 リビングラボについて、横浜市と関わることにしたのは何か意図があつてのことかということ、それから交流によって得られたものがあれば教えてください。
- 市 元々湯沢市は横浜市と交流がありましたので、湯沢市の地域課題の解決に向けて一緒に何かできないか、都市部との交流によって課題解決ができないか、ということが始まりでした。湯沢市でプロジェクトを立ち上げる以前から横浜市ではリビングラボの取組が行われておりましたので、課題解決のプラットフォームとしてリビングラボによる交流を進めてきたということになります。
- ただ、計画を立ててすぐにコロナ禍となり、オンラインでの交流が多くなってしまいましたので、まだ実績はそこまで出ていないというように思っております。今後プロジェクトを進めていければ、横浜市のリビングラボのメンバーの方々に湯沢市に来ていただいて色々な取組ができるのではないかと期待しているところです。
- 委員 移住定住の推進強化に関して、湯沢市へ移住される方に対する補助制度はありますか。
- 市 東京圏から移住される方について、単身世帯は 60 万円、2 人以上の世帯は 100 万円を助成し、2 人以上の世帯については 18 歳未満のお子

さん一人当たり 100 万円を加算するという制度があります。

また、首都圏以外から移住される方については、県の制度でございますが、1 世帯につき 10 万円を助成する制度があります。

さらに、湯沢市の空き家バンクに登録されている空き家を改修して移住する方について、改修費用を助成する制度があります。

案件（２）次期湯沢市総合戦略の策定方針(案)について

（ 事務局から資料について説明 ）

◆アドバイザー

幸福度の低さや若い女性の人口流出の真の原因は何かということがあまり見えなかった気がしました。施策はたくさん打っていますが、本当に真の原因を解決する施策になっているかどうかについて、改めて考えていただければよろしいかと思います。

●市

幸福度の低さや若い女性の人口流出には多くの原因があり、なかなか一つには絞り切れないと考えています。ただ、そこを突き詰めていかないと解決できないと思いますので、皆さんの御意見を伺いながら突き詰めていければと思います。

今回の資料は様々なアンケート調査の結果等をもとに作成した叩き台ですので、今後市民の皆さんの意見を伺った上で固めていきたいと考えています。

○委員

市民ワークショップ等色々な機会があると思います。その中で市職員の皆さんが気づいていなかった真の原因が見えてくるかもしれませんので、しっかりフォーカスしていただければと思います。

○委員

19 ページの社会減対策として、若い女性にターゲットを絞った理由は何なのかと思いました。今は女性の活躍推進などの政策が多いですが、実際に女性の話を聞くとそんなに活躍しなくても自分らしく働いて生活できればいいと思っている人が多いように思います。

また、横手市に転出が多いというのも、女性が働きやすい職場環境があるのではないかと感じました。湯沢市の企業では人手不足が深刻ですので、育休や産休の制度があっても積極的に取りにくく、子育てとの両立が難しいという現実的な問題があると思います。ですので、宮城県や秋田市、横手市への女性の転出は、働きやすい環境が整って

いるところに転出しているのかなと思います。

あとは、たまたま秋田市や横手市の男性と結婚している確率が高いということもあるかもしれません。

●市

資料の書きぶりは、データを見ると若い女性の流出が多いということ強調したかったためです。7月25日の秋田魁新報にも、人口減少問題について若い女性が責められている感じがするという記事がありました。しかし、人口減少問題は女性が悪いというものでは全くありません。この点については市でも十分に認識していますので、計画の記載には頂いた御意見を反映させていければと思っています。

また、今後は御意見いただいた働き方が重要であるとも思っています。地元企業さんにも協力をいただきながら、地元へ定着していただく方策を考えていかなければならないと考えています。

余談になりますが、国でこの10年間の地方創生の取組の検証が行われています。その中で、自治体間の競争が激しくなり、人口の奪い合いが起きていると指摘されています。湯沢市でも、市民の皆さんから横手市の方が施策が充実しているという声が結構ありまして、競争になっているという面がないわけではありません。そういった意識を変えるためにも、多様性や柔軟性をもって社会全体の仕組を構築する必要があると考えています。

○委員

「女性が輝く」という表現には違和感がありまして、活躍したいという方はもちろん活躍していただければよいのですが、やはり普通に働けるのが一番重要だと思います。市の意図は十分に伝わりましたが、表現については検討された方がよろしいと感じました。

○委員

移住定住施策に関しては、湯沢市から出ていかないような施策を打つ方がよいと思っています。奨学金の補助については非常によい施策だと思います。あとは、若い方は遊びや娯楽を求めています、同じ趣味を持つ方の集まりが地域に色々あると思います。そういった集まりを自治体でもピックアップして紹介し、若い方々をつなげるような施策を行ってはいかがでしょうか。

また、労働者の立場からいえば、年収200万円以下で暮らしている方がかなりの率いらっしゃるという話を聞きます。中央最低賃金審議会で示された増額目安50円の実現に向けて経営側が励んでいく必要があると思います。

また、私は居住地も勤務地も湯沢市外の県南他市ですが、趣味の関係で結構湯沢市に来ています。居住地に趣味を行う場がないためです。そのため、湯沢市単独ではなく、県南エリアでお互いに交流できるような取組をしていただくことも大事であると感じています。

●市

市でも移住定住の強化というよりは U ターン施策ということで、進学で出ていくのは仕方ないですが、いかにして戻ってきてもらうかということに着目し、奨学金の返還助成や、企業さんによる代理返還への補助等を行っています。

また、地元に戻った方が共通の趣味で交流できるということは必要だと思っています。それに行政がどのように関われるのかというのは難しいところではありますが、図書館や生涯学習、子育てといった様々な機能を複合した複合公共施設の建設を進めていますので、これが若い方から高齢者まで多世代で交流できる場所になっていくことを期待しています。

○委員

人口減少を抑えるまちづくりについて、社人研の推計では令和 12 年に 33,000 人になるところを、36,000 人に留めるというような考え方でよろしいでしょうか。

●市

現在の人口ビジョンは平成 27 年に策定したものですので、今年改訂を行います。社人研の推計と大きく変えることはなかなか難しいと思っていますので、湯沢市がこういった社会を目指したいというところから見直しをしていきたいと考えています。

○委員

色々と不安を持つ市民の方もいらっしゃるようですが、湯沢市にはある程度の暮らしやすさや自然、美味しい食べ物もありますので、次の 5 年はデジタルの力を使って省力化を図りながら、「湯沢市は住みやすいところですよ」と自信をもって言えるようにしていくということを前面に出していくと、そんなに市民に不安を起こさせることがないのではないかと感じました。

●市

我々も元気なまちというのは、人口の数の問題ではなく、住んでいる皆さんに活気があるということだと捉えています。ただ、行政サイドからは、やはりどれくらいの人口があれば行政サービスが効率的になるか、それから市民の皆さんが希望を持って持続可能に生活できる

かということが当然ありますので、人口についても見据えていかなければならないと考えています。

○委員

市民満足度調査を資料としていますが、企業からもアンケートを取って考えた方がよいと思います。基本的にウェルビーイングというのは、収入がたくさんあり、趣味が充実していて、自分の時間がしっかり取れれば幸せと考えると思いますので、給与を出す企業の側の意見を聞いて施策を検討した方が建設的であると思います。

また、高校生の意見を聞くというのもよいことだと思いますが、約4万人の市民のうち高校生は何人もいません。そうであれば、もっと20代30代の意見を聞いて、10年後20年後こうしていきましょうという方針を決めた方がよいのではないのでしょうか。他の意見をもっと聞いてみた方がより市民の現実の生活につながっていくと思います。

●市

高校生の意見だけを聞いているわけではなく、市民満足度調査は全年代を対象としていますので、20代30代の方の御意見も反映されています。また、今後市民を対象にワークショップを開催しますが、その際は若者世代の方に多く集まっていただき、御意見を頂きたいと思っています。

企業さんの声については仰るとおりです。ただ、アンケートですとなかなかお答えいただけないと感じていますので、今後御意見を伺う場を設けていきたいと思っています。

○委員

商工団体の青年部で意見交換やアンケート調査をするというのも一つの手だと思います。実は湯沢市のまちづくりに関するアンケート調査で、高齢の方は実際に集まって意見を出したいという回答が多くなっていますが、一般の若い方は直接対面での話し合いではなくアンケート調査の方がよいという回答が多くなっています。ですので、せっかく商工団体で集まれる若い方がいらっしゃるのであれば、活用して意見交換をするのもよいのではないのでしょうか。

○委員

雇用の創出に関して、今後企業誘致等は考えていますか。

●市

産業振興部で誘致はしていきます。ただ、今市で持っている工業団地に空きがない状況ですので、土地の問題はあります。

加えて、地元企業の社長さんが高齢化しており、次を担う方が不在であるという意見も多々ありますので、企業を引き継いでいただけるような方を紹介するというのも一つの方策になると思っています。

○委員

雇用に関して、福祉・医療・介護、建設業、大手の製造会社さんは人手不足ですが、他はそれほどでもありません。

また、横手市や秋田市へ転出される方が多いということですが、やはり職場の違いは大きく、特に高校生は労働条件や福利厚生がよいところに飛びつきます。地元企業さんがそのような企業に成長してくださるのが理想ですが、やはり企業を誘致することが大切になってくると感じています。

○委員

自治体の幸福度ランキングを見ましたが、残念ながら東北地方で100位以内に入っているのは宮城県富谷市だけで、東北全体の幸福度が低いという結果になっています。ただ、他の地方ですと、町や村でも上位に食い込んでいるところがありますので、参考にするのも一つの手だと思います。

策定方針の中で、それぞれの取組とゴール地点となる目指すまちづくりはあるのですが、その中間にくるべき達成度合いを計る KPI が無いのが気になりました。策定に当たっては、そこを見える化するとよいと思いますし、市民の皆さんへのアピールにもつながっていくと感じました。

●市

今回お示ししたのは目指すまちづくりの二つの方向性であり、今後具体的な施策を積み上げていきたいと思っております、その中で KPI については当然設定したいと考えています。

案件（３）その他

（事務局から資料について説明）

- ・第２期湯沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂についての報告
- ・市民ワークショップについての周知